

Performance Status 低下の経過中に発病したと考えられる肺結核 3 例の臨床的検討

高原 誠

要旨：平成22年1月～25年6月の期間，当院入院中の3例がPS低下に伴い肺結核を発病した。男性2例，女性1例で60歳以上だった。全例が結核発病数カ月前から誤嚥性肺炎を繰り返し，胸部CTで線維化病変，胸膜肥厚，胸膜や肺実質の石灰化が存在した。1例は結核性胸膜炎の既往があり，他の2例は発病前IGRAを検査し，1例が判定保留，1例が陽性だった。発病後は胸部CT上浸潤影，tree-in-bud appearance，小葉中心性結節影，粟粒結節，空洞病変等が出現した。高齢PS低下患者が誤嚥性肺炎を繰り返す場合，結核発病を鑑別するため，胸部CT検査，複数回の痰抗酸菌検査が必要である。
キーワード：Performance status，胸部CT，インターフェロン γ 遊離試験，誤嚥性肺炎